# 宇多津町生活排水処理施設整備構想 (案)

香川県 宇多津町

# 目 次

1.		生	活排	水処	理加	包設	整備	<b>青</b> 楫	想	につ	つし	いて	•		• • •	• •				٠.	٠.	٠.	٠.	• •	1
	1.	1	生活	排水	処Ŧ	里施	設			٠.															1
	1.	2	生活	排水	処Ŧ	里施	設團	を備	構	想															1
2.		生	活排	水処	理加	包設	の羽	見状	ځځ	課题	題に	つ	い	て											4
	2.	1	生活	排水	処丑	里施	設る	を取	り	巻	くり	と 沢	お	ょ	び	課	題								4
	2.	2	宇多	津町	のキ	犬況	お。	して	巜課	題															4
3.		=	宇多灣	聿町生	主活	排フ	k 処	理	施言	殳整	備	構想	想	( )	室)	13		しし	١ 7	-	•				6
	3.	1	生活	排水	処Ŧ	里施	設團	を備	構	想(	の見	直直	し	目	的										6
	3.	2	整備	計画	( }	案)																			6

### 1. 生活排水処理施設整備構想について

#### 1.1 生活排水処理施設

「生活排水処理施設」は、主に家庭や事業所などから排出される汚水 (生活に起因する排水で、し尿や雑排水など)を適正に処理し、水質を 改善する施設のことです。

生活排水処理施設には、汚水を処理する処理場とそこに汚水を集める管路を整備することでまとめて処理を行う「集合処理」と、汚水を処理する浄化槽を各家庭や事業所の敷地に設置してそれぞれで処理を行う「個別処理」があります。このうち「集合処理」は、市街地などの家屋がまとまって立地する区域への整備が効率的です。一方で「個別処理」は、家屋が散在している区域への整備が効率的です。

以下に、表 1. 主な生活排水処理施設の種類を示します。

	主管							
	・公共下水道 ・特定環境保全公共下水道	国土交通省						
集合処理	・農業集落排水施設 ・漁業集落排水施設	農林水産省						
	・コミュニティ・プラント	環境省						
個別処理	・合併処理浄化槽	垛児目						

表 1. 主な生活排水処理施設の種類

なお単独処理浄化槽は、し尿の処理はしますが、雑排水の処理はしないため、生活排水処理施設に該当しません。このため、し尿も雑排水も処理する合併処理浄化槽への転換に努める必要があります。

## 1.2 生活排水処理施設整備構想

# 1) 生活排水処理施設整備構想の概要

「生活排水処理施設整備構想」は、河川や海域などの公共用水域における水質を保全し、生活環境を向上させることを目的とした、町内全域を対象とする生活排水処理施設の整備計画です。この計画は、生活排水処理施設の特性や経済性に加え、地域住民の意向などの地域の実情を踏まえたうえで策定します。また、生活排水処理施設整備構想は、県が策定する計画と市町が策定する計画がそれぞれあり、10年ごとに見直しを行って新たに計画を策定する必要があります。

# 2) 香川県全県域生活排水処理構想の概要

香川県の生活排水処理施設整備構想としては、平成27年度に「第4次香川県全県域生活排水処理構想(以下、第4次構想という。)」を策定し、これに基づいて生活排水処理施設の整備を進めてきました。

現在は、第4次構想策定から 10 年が経過したことを受けて、新たに「第5次香川県全県域生活排水処理構想(以下、第5次構想という。)」を策定するべく作業を行っています。

なお、第5次構想では、以下の年度を計画目標年次と定めて、それぞれの時点の整備目標などを設定します。

・基準年次 (令和5年度):基準として現状把握を行う年次

・中間年次 (令和 12 年度):現在から目標年度までの中間の年次

・目標年次 (令和17年度):構想における目標を設定する年次

・長期計画年次(令和27年度):長期的な見通しを立てる年次

# 3) 宇多津町生活排水処理施設整備構想の概要

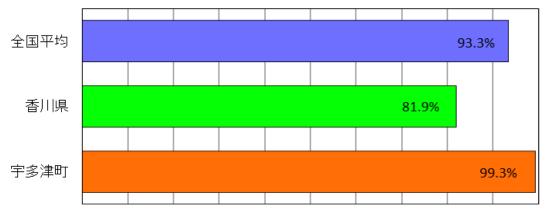
宇多津町は、香川県の構想策定と連携して、生活排水処理施設整備構想を策定してきました。第4次構想策定の際には「宇多津町生活排水処理施設整備計画」を策定しており、現在は第5次構想策定作業と連携して「宇多津町生活排水処理施設整備構想」を策定するための作業を行っています。

### 4) 汚水処理人口普及率の概要

生活排水処理施設の整備状況を示す指標としては、汚水処理人口普及率(以下、普及率という。)があり、汚水処理施設が利用可能な人口(以下、整備人口という。)を行政人口で割ることで求められます。

宇多津町の令和 5 年度時点の普及率は、99.3%に達しており、香川県の81.9%や全国平均の93.3%を上回っております。

以下に、図1.汚水処理人口普及率の状況(令和5年度)を示します。



0.0% 10.0% 20.0% 30.0% 40.0% 50.0% 60.0% 70.0% 80.0% 90.0% 100.0% 汚水処理人口普及率(%)

図1. 汚水処理人口普及率の状況 (令和5年度)

# 2 生活排水処理施設の現状と課題について

# 2.1 生活排水処理施設を取り巻く状況および課題

現在の生活排水処理施設の整備を取り巻く社会情勢や整備事業の方針 および制度などには、以下のような課題が生じています。

- ① 高齢化および少子化社会の進行に伴う人口の減少傾向、空き家の増加
- ② 社会資本整備に求められる、より効率的・効果的な事業の執行
- ③ 地方公共団体の財政の逼迫化
- ④ 生活排水処理施設の老朽化の進行および施設ストックの増大
- ⑤ 生活排水処理施設の新設から維持管理・改築更新への重点化
- ⑥ 耐震化および長寿命化による生活排水処理施設の持続性
- ⑦ 豊かな海を目指す事業の推進

# 2.2 宇多津町の状況および課題

#### 1) 将来人口の見通し

宇多津町は、近年まで行政人口が増加する傾向にありましたが、将来 の行政人口の予測では減少していくとされています。

以下に、表 2. 宇多津町の将来人口の予測および図 2. 宇多津町の将来人口の予測図を示します。

年 ድ	令和7年度	令和12年度	令和17年度	令和22年度	令和27年度
年度	2025年度	2030年度	2035年度	2040年度	2045年度
行政人口(人)	18, 659	18, 429	18, 091	17, 663	17, 145
令和7年度からの減少率	1.000	0. 988	0. 970	0. 947	0. 919

表 2. 宇多津町の将来人口の予測

参考:国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」(令和5年12月推計)



図 2. 宇多津町の将来人口の予測図

表2及び図2に示す通り、宇多津町の行政人口は今後20年間で約92%に減少すると予測されています。行政人口の減少は、税収などの減少につながるため、生活排水処理施設の整備および維持管理などに大きく影響を与える課題となっています。

# 2) 生活排水処理施設の整備状況

宇多津町は、集合処理の公共下水道(中讃流域下水道大東川処理区) と個別処理の合併処理浄化槽という 2 種類の生活排水処理施設を整備してきました。

以下に、表 3. 宇多津町の生活排水処理施設の整備状況(令和 5 年度) および図 3. 宇多津町の生活排水処理施設の整備状況図(令和 5 年度)を 示します。

	1 0 10 2 11 11 1	1 307
整備手法	整備人口(人)	普及率(%)
集合処理 公共下水道(中讃流域下水道大東川処理区)	16, 048	87. 5
個別処理 合併処理浄化槽	2, 173	11.8
小計(生活排水処理施設)	18, 221	99. 3
未整備	121	_
合計 (字多津町全体)	18, 342	_

表 3. 宇多津町の生活排水処理施設の整備状況 (令和 5 年度)

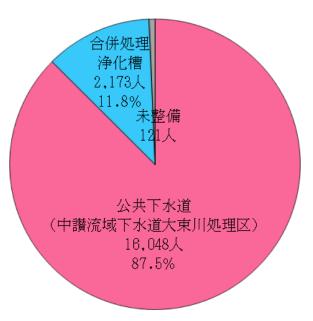


図 2. 宇多津町の生活排水処理施設の整備状況図 (令和 5 年度)

表 2 に示す通り、宇多津町の令和 5 年度の普及率は 99.3%となっています。今後は、未整備となっている地区の整備を進めるとともに、増大する生活排水処理施設の老朽化の進行にも対応する必要があります。

# 3 宇多津町生活排水処理施設整備構想(案)について

#### 3.1 生活排水処理施設整備構想の見直し目的

前述の通り、第4次構想の策定から10年が経過し、その間に生活排水処理施設の整備を取り巻く社会情勢などの変化、宇多津町の将来行政人口の減少などに伴う財政の逼迫、膨大な生活排水処理施設の老朽化の進行などの課題が生じています。これらに対応しつつ生活排水処理施設の普及を促進することを目的として、生活排水処理施設整備構想を見直します。

# 3.2 整備計画(案)

宇多津町の生活排水処理施設の整備は、これまでと同様に公共下水道と合併処理浄化槽の 2 種類を進めていきます。各生活排水処理施設の整備計画は、以下の通りになります。

・公共下水道 : 未整備地区の整備を行っていきます。

既存の施設の維持管理を適切に行っていきます。

整備済みの下水道管への接続を促していきます。

・合併処理浄化槽:合併処理浄化槽の普及に努めていきます。

単独処理浄化槽などからの転換を促していきます。

今後も生活排水処理施設整備構想に基づいて生活排水処理施設の整備などを行い、早期概成や持続的な整備・運営管理に取組んでいきます。

また、生活排水処理施設の整備計画は、今後も社会情勢の変化、集合処理の施設の老朽度、合併処理浄化槽の設置状況などを注視し、必要に応じて柔軟に見直しを行っていきます。

